

「ありがとう」と言われてイヤな気持ちになる人はまずいないでしょう。

「ありがとう」という言葉は、人の心を明るく弾<sup>はす</sup>ませてくれます。

ふだん意識にのぼることはほとんどないけれど、そもそも「ありがとう」というのは、「有りがたし」の連用形「有りがたく」がウ音便化して「有りがとう」となったもの。

有<sup>かた</sup>ることが難<sup>めった</sup>い（＝困難であること）、すなわち滅<sup>めった</sup>多になくて貴重だということから来た言葉ですから、このわずか五文字の短いフレーズには、相手の親切や厚意<sup>こうい</sup>を身にしみて嬉<sup>うれ</sup>しく思う気持ち、相手をたたえる気持ち、たとえばようなない感謝の念などいろいろな思いが詰<sup>つ</sup>まっているのです。たとえ今、それを口にする人がそこまでの思いに至っていないなかったとしても、「ありがとう」のひと言に込められた言<sup>こと</sup>霊<sup>だま</sup>は、やはり昔と変わらず人の心を照らしてくれるのでしょう。

問——「そこまでの思い」とはどのような思いですか。ふさわしい部分のはじめとおわりの五字を書きなさい。